

國學院大學學術情報リポジトリ

國學院大學130周年記念誌

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2024-11-27 キーワード (Ja): 377.28, FB22, 国学院大学 コクガクインダイガク キーワード (En): 作成者: 國學院大學研究開発推進機構校史・学術資産研究センタ ー編 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001191

1882 - 明治15年 ◀ 皇典講究所創立

1890

1900

1910

- 大正元年

1920

- 昭和元年

1930

◀ 神殿鎮座

1940

1950

1960

1970

1980

1990

- 平成元年

◀ 幣殿・拝殿

2000

2012

- 平成24年

CHAPTER 6

法人傘下校・関係法人

法人傘下教育機関 204

國學院大學栃木学園 208

國學院大學院友会 210



130TH ANNIVERSARY ISSUE OF KOKUGAKUIN UNIVERSITY

法人傘下教育機関

学校法人國學院大學では、昭和 23 年の國學院高等学校の開校以降、高等教育から幼児教育にいたる諸学校を開設して、神道精神に基づいた研究教育を建学の精神とする伝統を継承しつつ、現代社会の求めに応じた幅広い研究教育活動を展開してきている。ここでは、周年事業や施設整備を中心に、ここ 10 年間における各校の主な取り組みを取り上げる。

■ 國學院大學北海道短期大学部

國學院短期大学では、平成 18 年 4 月に、幼児・児童教育学科に新しく小学校教諭養成課程である児童教育コースが開設され、これにより小学校教諭二種免許が取得できることとなった。翌 19 年度より、学費の支弁が困難で進学を断念せざるを得ない新入生に対する「特別奨学生制度（ワーキング・スカラーシップ）」が新設された。この特別奨学生のうち、2 年間学生生活全般にわたり努力した学生には「学長賞」が授与される。

平成 20 年 4 月、従来のコミュニケーション学科を「総合教養学科」と改称し、翌 21 年 4 月には校名を國學院短期大学から「國學院大學北海道短期大学部」へと改称した。この校名の改称により、國學院大學の「短期大学部」として、北海道キャンパスの役割を担っている。さらに同年度入試より、本学との併願制度が導入されている。加えて、専攻科福祉専攻との教育内容の連続・一貫性に注目し、かつ平成 25 年 1 月より介護福祉士資格が国家試験化されることなどを受けて、平成 22 年 4 月に幼児・児童学科に「福祉介護コース」が開設され、これにともなう「福祉介護人材養成奨学金」も創設された。また、文部科学省の

平成 21・22 年度「大学教育・学生支援推進事業」（就職支援推進プログラム）に、「就職希望者の就職 100% を目指す正課科目の活用」が採択されている。

■ 記念事業

平成 14 年に開学 20 周年を迎え、薪能奉納、『アイヌ語の文法』などの刊行、アイヌ丸木舟の復元の三つの記念事業を実施した。薪能奉納は、五周年での雅楽、十周年での狂言、十五周年での生花の実演といった「國學院らしさ」を基調としたこれまでの記念事業を受けて催され、同年 8 月 9 日に北海道神宮境内で金春流の能楽が上演された。

平成 19 年に、開学 25 周年を記念して敷地内に 18 ホールのパークゴルフ場「万葉の丘」が造成され、同年 10 月にオープンした。本ゴルフ場は学生の授業に使用されているほか、翌 21 年 7 月からは市民へも開放されている。

平成 24 年は、開学 30 周年として各種の記念事業が計画されている。4 月 10 日に「國學院大學北海道短期大学部開学 30 周年宣言」と



して、以下のような宣言が発せられた。

30 周年を中今として、2020 年以降もより一層の発展と安定を目指す
一本学に関係する全ての人々の参加と力の結集のもとに一

建学の精神に基づき、学生と教職員の人間力と資質の向上を目指して、短大部の教育体系とその環境の基盤を整備・強化する。
また、地域をはじめとし、國學院大學・同窓会・父母会などとの連携を一層深め、地域社会と共生し相互の充実と発展を期する。
このため、全学的に取り組む具体的な目標として、

一、教養教育の充実による、幅広い知識・視野の醸成と実践力の育成

一、礼儀などの社会人としての基礎的素養と国際的な視野の涵養
一、地域唯一の短期大学として、教育力の提供、社会奉仕活動・街づくりへの参加、福祉人材の養成等地域社会への貢献
を掲げ、関係者の叡智と総力を結集し、これを実現することにより、高等教育機関として滝川市で2020年以降も安定した質の高い教育活動を継続することをここに宣言する。

また、本学の建学の精神の基底となる皇典講究所初代総裁有栖川宮幟仁親王の告諭を刻んだ石碑がグラウンドに竣工され、6月7日に竣工清祓式ならびに除幕式が行われた。さらに同月、ノルディックウォーキングコースが整備された。このほか、平成13年に金田一記念文庫が本学図書館より北海道短期大学部へ移管されてから10周年を迎えることを記念して、開学30周年記念事業の一環として、記念講演会(平成23年11月23日、演題「アイ

ヌ文化の継承について」(狩俣恵一 沖縄国際大学教授)、「金田一記念文庫のアイヌ関係資料について」(佐々木利和 北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授)、「金田一京助先生の思い出」(岡崎正継 國學院北海道短期大学部名誉教授))・展示会(同月20日～27日)や「金田一記念文庫蔵 アイヌ文化資料展」(平成24年9月8日～13日、10月22日～28日)が開催された。短期大学部の同窓会組織である「ありす会」が、平成21年度に発足25周年を迎え、「ありす会発足25周年記念誌」が刊行された。

■ 地域連携

北海道滝川市と國學院短期大学による地域との連携強化、融合を目指した改革や新企画・事業の展開を目指して、平成15年から、滝川市との共催による「サマーフェスタ」が開催されることとなり、市民との交流の場となっている。また、國學院短期大学と滝川市のコミュニケーション誌『北海道CATY(キャティ)』

が創刊されるとともに、コミュニティラジオ(エフエムなかそらち-G'Sky)での番組「FM CATY」の放送が開始された。この2つは、平成16年度より学内インターンシップ(コープ教育)として位置づけられている。「CATY」という名称は、「CAmpus」と「ciTY」を合わせた造語で、両者の絆が象徴されている。また平成16年度には、宇梶輝良理事長が、魅力ある大学づくりをめざす「活性化推進基本プラン」を策定し、中空知地域唯一の高等教育機関として生涯学習の拠点づくり、都市の魅力を高めるための地域に根差した大学の実現に尽力するなど、私学の振興・発展の功績により、滝川市の田村弘市長から市政功労者として7月1日に表彰された。平成21年には、子育て支援で地域に貢献するために子育てサロン「ありす」を開設し、ゼロ歳から4歳未満の乳幼児を対象に、乳幼児の遊び場や子育て中の親の情報交換や友人を作る場として、定期的に校舎を開放している。



■ 國學院高等学校

國學院高等学校は、平成21年5月より文科館の改修工事が行われ、同年9月17日に竣工し、同月28日に竣工清祓式が斎行された。この改修によって文科館は、地下1階に図書室、1階に集会室とギャラリー、2階に書道室と美術室、3階に特別教室としてリニューアルされた。

■ 記念事業

平成20年に開校60周年を迎

え、10月11日、同校の第二記念館にて開校60周年祭および記念式典が挙行され、明治記念館においても60周年記念祝賀会が催された。また、60周年記念プロジェクトとして、デザイナーの丸山敬太氏による新制服が作成され、平成21年度より使用されている。このほか、開校60周年を期して、校内に念願であっ



た同窓会室が設置され、同窓会との連携がさらに図られている。

■ 國學院大學久我山中学・高等学校

國學院大學久我山中学・高等学校では、平成 14 年度より授業週 5 日、7 校時制および男女別学化が導入されていたが、20 年度にふたたび授業週 6 日、6 校時制へと戻された。学内施設については、キャンパス再整備事業が推進され、平成 18 年 7 月に柔道場が解体され、地上 3 階建の西館を全面改装する「学習センター」の建設が着工された（平成 20 年 3 月 27 日に竣功式を執行）。「学習センター」は、1 階にカフェテリア、売店、男子保健室、2 階に普通教室、多目的教室、自習室、3 階に CALL 教室、図書室を設置し、また、吹き抜け部分に、冬は最上部に溜まった熱を階下に取り込み、夏は館内の熱溜まりを外部へ放出す



る「クリモタワー」が設置されており、「自然との共生」をコンセプトにする「風を感じる校舎」となっている。この学習センターの建設と並行して、高校グラウンドが人工芝化され、平成 20 年 4 月 26 日に竣功式が執行された。平成 22 年 7 月には、正門から理科会館を経て学習センターに至る約 80 メートルの通路が「学びの道」としてインターロッキング化され（9

月に完成）、インターロッキングは「学びのプロセス」をテーマとしたデザインとなっている。さらに平成 24 年 8 月より、「中学グラウンド」の全面リニューアルが行なわれている。

■ 記念事業

平成 16 年、創立 60 周年を迎え、10 月 19 日に記念式典が第一体育館にて挙行された。平成 21 年には

創立 65 周年を迎え、10 月 19 日に記念式典および講師に作家の浅田次郎氏を招いての記念講演「近代中国の科挙」（同日）・同月 27 日に府中芸術劇場のどりーむホールにおいて、藤岡幸夫氏指揮・日本フィルハーモニー交響楽団演奏による記念演奏会を催した。



■ 國學院大學附属幼稚園

國學院大學附属幼稚園では、子育て支援事業として、従前の「預かり保育」に加えて夏季休暇中の「預かり保育」も平成 18 年より実施されている。また、翌 19 年度からは、未就学児を対象としたオープンキャンパス（レインボールーム開設）が行なわれている。さらに平成 20 年度より、園庭開放日が年 9 回実施されている。平成 21 年度は、文部科学省の「幼稚園教育要領」の改訂にともない、「食育」が新たな重点項目とされ、保護者向けの食育講座なども開催されている。





國學院幼稚園

國學院幼稚園では、子育て支援事業として平成 17 年より「預かり保育」（にこにこクラブ）が実施されている。また、在園児母親の精神的ケアを目的とした「にこにこ談話室」や、父親同士の交流促進を目的とした「パパネット」、入園見学の「ママとなかよし会（未就学園児ひよこ組）」などの取り組みも実施されている。



■ 記念事業

國學院幼稚園は、平成 16 年に開園 35 周年を迎え、10 月 16 日に「内祝いの集い」を催し、「初代園長小林武治先生遺墨展」もあわせて開催した。さらに記念事業として、耐震補強などの改修工事や机・椅子などの設備の充実を図った。

平成 21 年に開園 40 周年を迎え、記念式典を園庭にて 10 月 23 日に挙行了した。記念式典では、記念樹「姫りんご」が植樹された。翌 24 日には、記念祝賀会が遊戯室に

て開催され、後援会わかばから「ジャングルジム」、父母後援会から「講演台」の記念品が贈呈された。また、記念事業として、木製遊具、アスレチックの工事や厨房の床の張り替え工事が行われた。



國學院大學幼児教育専門学校



平成 14 年に保育士養成課程認可の内示を受け、翌 15 年より保育士養成を開始した。また平成 17 年 4 月より専攻科（1 年）を開講した。平成 20 年度より、本学への編入学制度が導入され、初年度は 3 名の

学生が編入した。平成 21 年度入試からは、AO 入試制度や社会人入試制度が導入された。また、同年度より、教員免許更新制度が導入されたことにともない、幼稚園教諭を対象とした教員免許状更新講習（8 月 2

日～4 日）が実施された。

平成 25 年度より、國學院大學人間開発学部幼児教育・保育系の新学科である子ども支援学科が開設されることにともない、平成 24 年度入試より保育科の募集を停止した。専攻科の募集も平成 25 年度より停止し、同校が培ってきた「幼児教育」の伝統と実績を新学科へ発展的に移行していく。

■ 記念事業

國學院大學幼児教育専門学校は、平成 16 年に開校 50 周年を迎え、9 月 30 日に同校講堂にて記念祭および記念式典が挙行了された。翌 10 月 1 日には、新横浜プリンスホテルにて祝賀会が催された。

國學院大學栃木学園

本学と建学の精神をともにする一心同体の姉妹法人である学校法人國學院大學栃木学園は、昭和35年の國學院大學栃木高等学校の開校以来、平成22年に創立50周年を迎えた。

学校法人國學院大學栃木学園では、平成15年4月、佐々木周二理事長が高齢により退任し、木村好成常務理事が第4代理事長に就任した。佐々木周二前理事長は、平成19年、学園長に推戴された。

平成15年9月より、JR東武栃木駅北口に「國學院大學栃木学園教育センター」の建設に着工し、少子化による学生・生徒の減少など経営環境の変化を勘案して、第1期、第2期の工程で計画された。第1期工事では、1階にインターネットカフェ機能を持つ自習室、2階に予備校実施の衛星放送講座が受講できる個人ブース室（講義室）、短歌資料室、3・4階に講義室が整備され、平成16年9月17日に竣工し、同24日に竣工清祓式が執行された（10月12日より使用開始）。第2期工事は平成17年9月より着工され、翌18年9月26日に竣工し、10月4日に竣工清祓式が執行された。第2期工事では、2階にアートギャラリーと講師控室、2・3階にレクチャーホール（階段教室）、4階に大講義室、会議室、講師ラウンジ、講師控室が整備された。また、平成4年より順次行われていた学園全施設の冷房整備工事が、平成22年5月の幼稚園保育室をもって完了した。

平成17年に学園創立45周年を

迎え、10月8日に学園四十周年記念館にて神前奉告祭の斎行および記念式典が挙行され、その後、関係物故者慰霊祭が斎行された。

平成22年、創立50周年を迎え、10月8日に学園四十周年記念館において奉告祭、関係者物故慰霊祭が斎行、創立記念日である10月9日に、同館にて記念式典が挙行され、その後、栃木サンプラザにて記念祝賀会が開催された。また、記念事業として、木村好成理事長・高等学校長による記念講演会「学園の五十年を支えた人々」（10月8

日、中学・高等学校生徒対象）、「太平山の歴史と文化」展（10月9日～11月22日）、短期大学国文学科公開講演会「源氏物語の装束」（11月17日、講師は林田孝和国文学科教授、着付けは綺陽会会員・本学大学院生畠山大二郎氏）、記念研修旅行（10月10日～11日、長野県小布施・長野・小諸）、木村好成理事長の随想録『太平の春秋』の刊行などが実施された。平成23年4月には、『飛翔—創立五十周年記念誌—』がまとめられている。



提供：学校法人國學院大學栃木学園

■ ■ ■ 國學院大學栃木短期大学

栃木短期大学では、教職以外の希望者が増加していることを受けて、家政学科にて平成 14 年度入学者より semester 制を導入（平成 21 年度より全学科で採用）するとともに、専門科目を 4 系統に分類して選択科目を増やし、養護教諭課程履修者を除き「フードスペシャリスト」資格の取得を可能とした。また、平成 16 年度入学者から、全学科で男女共学制が採用され、日本史学科では「日本史コース」、「歴史遺産コース」の 2 コース制（平成 21 年度より「日本史コース」、「文化・美術史コース」、「考古学コース」の 3 コース制に変更）、商学科が「経営・経

済コース」、「会計・IT コース」、「ビジネス実務コース」の 3 コース制（平成 19 年度より「国際経済コース」、「経営会計コース」、「ビジネス情報コース」に変更）となり、政治学科では生活科学専攻と健康科学専攻の 2 専攻制となった。さらに、平成 22 年度に、初等教育科に保育士課程を設置することを厚生労働省関東信越厚生局に申請し、平成 21 年 3 月 26 日付で認可され、保育士資格が新たに取得できることとなった。

これにより「幼稚園・保育コース（保育士・幼稚園教諭免許取得）」と「小学校・幼稚園コース（小学校・幼稚園教諭免許取得）」の 2 コース

制が設定された。平成 23 年に、従前の 5 学科体制を解消して「日本文化学科」と「人間教育学科」の 2 学科制と改組する認可を受けた。各学科には、学部に対する学科のような「フィールド」が設けられており、「日本文化学科」には「日本文学」、「言語文化」、「日本史」の 3 フィールド、「人間教育学科」には「子ども教育」、「生活健康」の 2 フィールドの 5 つが、さらに「子ども教育」フィールドには「小学校・幼稚園専攻」と「幼稚園・保育士専攻」の 2 専攻が設置された。



■ ■ ■ 國學院大學栃木高等学校 國學院大學栃木中学校

平成 14 年度より、中学校・高等学校ともに授業週 5 日、7 校時制が導入され、高等学校では第 1・第 3・第 5 土曜日に希望者を対象とした特別講座が行われている。平成 15 年度からは、積極的に高大連携に取り組んでおり、大学入学後に大学の単位として認める本学との連携授業や大学教育を高等学校に招聘しての出張講義を行っている。また、平成 16 年度に宇都宮大学と連携し、文部科学省の SPP（「サイエンス・パートナーシップ・プログラム（講

座型学習支援活動）」、平成 18 年度より「プログラム」に改称）連携プログラムに採択され、平成 20 年度を除いて 22 年度まで 6 回の連携講座が実施されている。平成 22 年度入学者より、普通科に特別選抜 S コースを設置した。これにより、一類は「中高一貫コース」、「特別選抜 S コース」、「特別選抜コース」の 3 コース、二類は「選抜 α コース」、「選抜 β コース」の 2 コースとなり、「選抜 β コース」は 2 年次より「國學院大學進学クラス」を設置し、本

学との高大連携を強化し、高等学校と大学での 6 年間教育を行う。翌 23 年に「選抜 α コース」は「選抜コース」として一類の所属とされ、「選抜 β コース」は「文理コース」と改称された。さらに、平成 25 年度からは一類に「グローバルコース」が新設される予定である。なお、平成 22 年度入学者から制服が新たにされ、3 代目となる新制服が着用されている。



■ ■ ■ 國學院大學栃木二杉幼稚園

國學院大學栃木二杉幼稚園では、平成 21 年に隣接地権者の協力を

得て、運動場を大幅に拡張して、平成 5 年の敷地拡張からさらにゆとり

ある幼稚園敷地が確保されることとなった。

國學院大學院友会

國學院大學卒業生（院友）を中心とする一般財団法人國學院大學院友会は、明治 20 年の水穂会発足をもって創始とし、平成 19 年に設立 120 周年を迎えた。

本学卒業生（院友）を中心とする財団法人國學院大學院友会は、平成 14 年 5 月 9 日に明治記念館で開催された「院友わかば会」において、阿部美哉学長より、本学の発展と建学の精神に鑑み、有為なる後進の育成について、院友神職の方々からの協力を得たいとの要請があったことを受け、「院友わかば会」での審議の結果、先の目的に加えて、院友神職相互の親睦を図るため、「院友神職会」を結成した。同年 9 月 19 日に百周年記念講堂において「院友神職会」の発会式が挙行政され、その後、明治記念館にて発会祝賀会が催された。

平成 17 年には、母校を卒業した外国人留学生による「國學院大學留学生院友会」の結成式が、3 月 20 日の卒業式当日に院友会館大会議室にて開催された。また、長らく休眠状態にあった東京都支部を「東京二十三区支部」と改称して新たに発足させ、同年 11 月 26 日に設立総会および祝賀の懇親会が開催された。

平成 19 年 11 月、國學院大學院友会は発足 120 周年を迎え、記念式典および特別講演会が 5 月 26 日



提供：一般財団法人國學院大學院友会

にグランドプリンスホテル高輪の「プリンスルーム」にて挙行政された。特別講演会は「日本の未来にむけて」と題して、石原慎太郎東京都知事による講演が行われた。さらに、発足記念日の 11 月 3 日に、本学神殿での院友会発足 120 周年奉告祭ならびに明治神宮正式参拝が斎行された。また、発足 120 周年記念事業として、院友会館の改修工事が行われるとともに、院友会の一支部一事業が推進され、全国の各支部にて講演会やフォーラム、演奏会などの

様々な催しが行われるとともに、平成 22 年 11 月に本学研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター客員教授で院友の益井邦夫氏執筆による『國學院大學院友会百二十年史』が刊行されている。

平成 23 年 6 月 20 日開催の平成 23 年度第 1 回評議員会において、任期満了による理事・監事の改選がなされ、これを受けて同月 29 日の第 2 回理事会で、会長、副会長の互選が行われ、外山勝志会長の後任に、吉田茂穂副会長・鶴岡八幡宮宮司が選出され、就任した。

平成 20 年 12 月より施行された公益法人制度改革関連三法への対応として、平成 23 年 3 月 28 日開催の平成 22 年度第 3 回理事会および第 2 回評議員会において、一般財団法人への移行が正式に決定され、平成 23 年 5 月 16 日開催の平成 23 年度第 1 回理事会および 6 月 20 日開催の第 1 回評議員会では、移行後の名称として「一般財団法人國學院大學院友会」とすることも正式に機関決定され、平成 24 年 10 月 1 日をもって移行した。

略年譜

國學院大學

平成 14 年度から平成 24 年度

平成 14 年度 2002-2003

創立120周年

- この年「國學院大學 21 世紀研究教育計画」が策定される
- 4月 時間割作成支援システム「K-SMAPY」導入
- 4月 神道文化学部開設
- 9月 院友神職会発会式
- 10月 文部科学省 21 世紀 COE プログラムに「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」が採択
- 11月 創立 120 周年記念式典
- 1月 陸上競技部、第 79 回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）出場
- 2月 120 周年記念 1 号館竣工

平成 15 年度 2003-2004

創立121周年

- 4月 宇梶輝良理事長再選
- 4月 阿部美哉学長再任
- 4月 本学のシンボルマークを作成
- 11月 陸上競技部、第 35 回全日本大学駅伝対校選手権大会（全日本大学駅伝）に初出場
- 12月 阿部美哉学長逝去により、副学長・学長職務代理者の青木周平教授が学長代行に就任
- 3月 百周年記念館改修工事完了

平成 16 年度 2004-2005

創立122周年

- 4月 安蘇谷正彦教授、学長就任
- 4月 法科大学院（大学院法務研究科法務職専攻）開設
- 4月 初めて新高輪プリンスホテル（現、グランドプリンスホテル新高輪）「飛天」において入学式を挙行
- 5月 國學院大學学報の別冊『K：DNA』第 1 号を刊行
- 7月 120 周年記念 2 号館竣工
- 8月 若木会館改修工事完了
- 9月 國學院大學幼児教育専門学校、開校 50 周年記念式典
- 10月 國學院幼稚園、開園 35 周年「内祝いの集い」
- 10月 國學院大學久我山中学・高等学校、創立 60 周年記念式典
- 3月 國學院大學留学生院友会結成式

平成 17 年度

2005-2006

創立123周年

- 4月 経済学部、経営学科を開設し、3 学科体制に移行
- 4月 文学部第二部の学生募集を停止し、「文学部」に名称変更
- 10月 國學院大學栃木学園、学園創立 45 周年記念式典
- 1月 日本文化研究所設立 50 周年記念講演会・記念国際シンポジウム
- 1月 「情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)」ならびに「ISO/IEC27001:2005」の認証取得
- 3月 新たな図書館システム「K-aiser (カイザー)」稼働
- 3月 経済学部 40 周年 (政経学部 55 周年) 記念会

平成 18 年度

2006-2007

創立124周年

- 6月 若木タワー竣工
- 7月 文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代 GP) の持続可能な社会につながる環境教育の推進部門に「歴史文化を踏まえた環境総合教育の拠点形成—地域と国際を結ぶフィールド実践による主体形成—」が採択

平成 19 年度

2007-2008

創立125周年

- 4月 安蘇谷正彦学長再任
- 4月 研究開発推進機構発足
- 4月 大学事務局全体の再編成
- 4月 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業であるオープン・リサーチ・センター整備事業に「モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践」が選定
- 5月 國學院大學院友会発足 120 周年記念式典
- 8月 文部科学省新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムに「学生自ら発信する「自分史」作成支援—社会のなかでの自己活用力養成プログラム—」が採択
- 11月 創立 125 周年記念式典
- 11月 國學院大學院友会、本学神殿での院友会発足 120 周年奉告祭
- 3月 学術メディアセンター竣工

平成 20 年度

2008-2009

創立126周年

- 4月 「國學院大學における研究教育開発推進に関する指針」制定
- 10月 伝統文化リサーチセンター資料館全面開館
- 10月 國學院高等学校、開校 60 周年記念式典
- 11月 皇太子殿下の行啓
- 3月 たまプラーザキャンパス校舎等整備完了

平成

21 年度
2009-2010

創立127周年

- 4月 人間開発学部開設
- 4月 教育開発推進機構設置
- 4月 國學院短期大学、「國學院大學北海道短期大学部」へ改称
- 7月 第二次「21 世紀研究教育計画」公表
- 8月 文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマ B】学生支援推進プログラムに「日本語力強化をベースにした社会人力養成プログラム」が採択
- 8月 文部科学省組織的な大学院教育改革推進プログラムに「高度博物館学教育プログラム」が採択
- 9月 3号館竣工
- 9月 大学マスコット「こくぴょん」決定
- 10月 國學院大學久我山中学・高等学校、創立 65 周年記念式典
- 10月 國學院幼稚園、開園 40 周年記念式典
- 2月 坂口吉一常務理事、理事長就任

平成

22 年度
2010-2011

創立128周年

- 4月 大学院文学研究科史学専攻に「博物館学コース」「美学美術史コース」開設
- 5月 神殿鎮座八十周年祭
- 10月 硬式野球部、東都大学野球第 1 部秋季リーグ戦 1 部リーグ初優勝
- 10月 國學院大學栃木学園、創立 50 周年記念式典
- 1月 陸上競技部、第 87 回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）に出場、初のシード権獲得
- 3月 球技場人工芝化工事完了
- 3月 第 2 体育館竣工
- 3月 東日本大震災発生
- 3月 卒業証書・学位記、修了証書の授与式中止

平成

23 年度
2011-2012

創立129周年

- 4月 坂口吉一理事長再任
- 4月 赤井益久教授、学長就任
- 4月 学部・専攻科・別科の入学式中止
- 4月 授業開始日を 2 週間遅らせる
- 6月 吉田茂穂國學院大學院友会会長就任
- 2月 野球場人工芝化工事完了

平成

24 年度
2012-2013

創立130周年

- 4月 教学事務部教務課に教職センター開設
- 4月 北海道短期大学部、「國學院大學北海道短期大学部開学 30 周年宣言」
- 11月 創立 130 周年記念式典

これからの 國學院大學

國學院大學
学長 赤井 益久



國學院大學の母体である皇典講究所が明治15年に設立されて、本年度で創立130周年の記念すべき節目の年を迎える。皇典講究所に「國學院」が設立された明治23年、大学令による8私立大学の一つとして大学に昇格した大正9年、また戦前戦後の長い困難な時代、それぞれの時期に際し國學院大學の在り方を考え、かくあるべしとの思いを託し、大学運営に尽瘁せられた多くの先輩諸氏、役教職員の方々に深甚の謝意を奉り、今日の堅実な歩みをまず以てご報告したい。

明治維新後の欧化の波に洗われていた折りに、自国の文化を蔑ろにせず、重視すべきであるとの思いが朝野の有志を動かし、日本の古典や神道を講究教授する機関として出発した。初代総裁有栖川宮幟仁親王が宣言された「告諭」には、学問はその根本を究めることが何よりも大事で、自らの拠って立つ基盤を明らかにしてこそ、その将来も見据えることが出来、持って生まれた個性や徳性を涵養してこそ、その人の本分を尽くすことができると道破しておられる。

この「告諭」を建学の精神として位置づけ、神道精神を人材育成の基本方針として定めて、これまでの伝統と歴史を継承し、教育と研究に当たっている。日本人の拠って立つ基盤、日本人の心の在りようを見つめることこそが、すなわち「本ヲ立ツ」ことであり、また、神道精神とは、神道にあらわれる相手の立場や意見を尊重し慮る、排他的でない姿勢から、「日本人としての主体性を保持した寛容性と謙虚さ」と理

解し、現代的に意義付けし、教育と研究に活かしている。

平成 14 年、創立 120 周年を期して策定された「21 世紀研究教育計画」は、5 年を経過した平成 19 年に学校法人の中長期計画として位置づけるべく、大幅な見直しを行い、同委員会規程を改訂すると共に、その基本方針として「國學院大學における研究教育開発推進に関する指針」を制定した。この 10 年に大学が経験した変化は、過去 50 年に比してもなお余りあるものであった。現今の大学を取り巻く環境は、18 歳人口の減少、大学間競争の激化、入学者の多様化などが課題として目前にあり、適切な対応を求められている。

今般、130 周年事業を契機として「21 世紀研究教育計画（第 3 次）」へと改訂する。大学の使命である「伝統と創造」「個性と共生」「地域性と国際性」の調和を「三つの^{おも}慮い」と、それを支える行動計画を「教育」「研究」「人材育成」「国際交流」「施設設備」の基盤整備を「五つの^{もと}基い」とし、それに加えて「建学の精神を活かした個性ある教育と研究の実現」「日本社会の中核を担い、グローバル化する時代に貢献できる人材の育成」「國學院ブランドの確立と強化」を大学のあるべき将来として描いた。

伝統文化を継承し、それに学びつつ新たな価値を創造していくことは、われわれの生が祖先より受け継がれ、後世に継承するがごとく、その時代に新たな価値を見出しながら、発展し

てゆくことの必要性を認めるものである。また、人はそれぞれ持って生まれた個性を有し、その本分を発揮しつつ他者との共生を図らなければならない。地域社会における共生は、同時にさらに大きな共生を育むものであり、それは国家に広がっていくものである。国家も地域共同体の集合であるだけでなく、ひいては世界の共生に繋がるものである。こうした、相互に連携し、互恵的な循環作用が個人の生から地域社会での共生、国家間の共存共生からなる構造の上では、文化や価値観の多様性が尊重されなければならない。その際には、こうした循環構造を理解し、見識を有して、調和できる人材こそがそれを可能にする。

現在しばしば指摘されるグローバル化する社会に貢献できる人材とは、じつはこうしたことを自覚し認識できる人材の謂であり、じつは建学の精神である「告諭」、あるいは「國學院設立趣意書」などには、夙に指摘し示唆されているのである。個性ある教育と研究の実現とは、こうした國學院の基本に立ち返り、その精神を現代・未来に活かすことに他ならない。

これからの國學院大學は、これまでの 130 年の歩みを踏まえて、向後の百年にむかい、いまを「中今」とし、個性を輝かせると同時に新たな息吹をたえずもたらす努力を重ねていきたい。國學院らしさ、國學院ならではの研究教育をこれからも追い求め、日本人の「心ばえ」を見つめ続ける教育研究機関でありたいと思っている。